

一般家庭における食品用包装廃棄物の現状について（予報）

東京家政大 ○石久保鈴子 茂木三由紀 片山倫子

青山学院女短大 阿部幸子

目的 近年、地球環境の負荷の軽減化及び省資源化を目指し、あらゆる分野で各種材料の再資源化など有効利用の為先端技術が開発・研究されている。その一方、増大する廃棄物問題への対応が重要課題として取り上げられ、精力的に取り進められている昨今、家庭から廃棄される生活廃棄物への対応は、未だ検討すべき点が多々ある。本研究では、現状を把握するため、一事例として一家庭をモデルに家庭から廃棄される食品用包装物の数量とそれらの素材について調査、分析し、今後の課題について検討した。

方法 家族構成、父、母、女子2人の4人家族を対象とし、その家庭で1992年5月～7月に購入した食品の包装物を供試料とした。素材の鑑別には日本分光工業製 JAS-CO IR-810 とニコレー社 FT-IR を使用し、質量測定に直示天秤を用いた。質量及び容積測定は恒温恒湿室（20℃、65%）で行った。

結果 食品用包装物は形態別に7項目に分類でき、これらは①トレイとラップ ②容器とその他 ③容器とラップのような組み合わせが多かった。廃棄された個数は、①ラップ ②トレイ ③袋の順に多い。素材鑑別の結果、単一組成のものとラミネート組成のものがあり、単一ではPS、PP、EVAが多かった。ラミネートについては、全部で66個あり、組成として14種が判明し、PE/N/PET、PP/A1、PE/EVAを含むものが多かった。